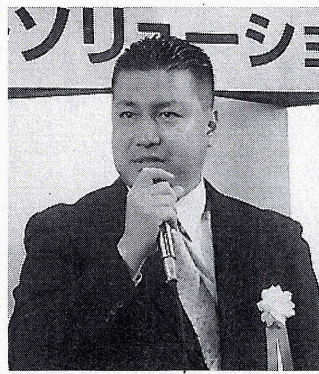


再配達や運転者不足

ロジコンシエルが新会社

配達ボックス 設置事業を展開



藤社長

ロジコンシエル(近藤正幸社長、東京都中央区)は12日、不在再配達やドライ

「再配達を減らしていくとともに、CO₂も削減したい」と近藤社長

バー不足問題の解決に貢献する新会社を9日に設立した、と発表した。宅配ボックスの設置事業を皮切りに、荷物の受け渡し並びに配達代行の取り

次ぎサービスを提供。新聞販売店や小売り店舗などと連携し、B to C(企業→消費者)の物流を支える。新会社の商号はラストワンマイルソリューション(同)で、プレッシオ(大谷貴志社長、港区)と共同出資して設立。近藤社長がロジコンシエル主催のビジネス交流会「ロイヤル会」

の開催70回を記念する拡大イベントで、新ビジネスを手掛けることになった経緯や意義を説明した。

誰でも利用できるオープン型の宅配ボックスを設置する事業を、パナソニックの協力を得て展開していく。新聞販売店を中心に、最初の1年間で都内100

200カ所に設置し、更に3.5年程度かけて全国の1500~2千カ所に増設したい構想。有人による荷物の受け渡しや配達ニーズへの対応も計画しており、大手宅配会社をはじめとする物流企業のみならず、小売企業や通販企業に

も利用を促す。プレッシオは新聞の折り込みチラシをセットするための丁合機を製造・販売。新聞販売店は全国で1万8千店舗ほどを数えるが、同社はその半数程度と口座を開設しているという。

販売店に物流拠点としての機能も付与することにより、地域における新たな物流インフラを整備する。近藤氏は「ロイヤル会をきっかけに新会社の設立に至った。宅配ボックスを設置することで、再配達を減らしていくとともに、CO₂(二酸化炭素)も削減したい」と強調。

大谷氏は「インフラとしての新聞販売店の価値を再定義し、ラストワンマイルの新たな選択肢を提供していく」と意気込みを表明した。(沢田頭嗣)